

亀山隆先生の本号の企画は古くて新しい、大変重要なテーマの「軽症頸椎症性脊髄症の治療戦略」である。

このテーマは、脳神経内科医からみた治療戦略と脊椎脊髄外科医からみた治療戦略に違いはあるのか、また手術のタイミングや予後不良例はどのような患者なのか、そのよい指標はあるのか、予測可能なのか……など、いつになっても興味が尽きないテーマであろう。「軽症頸椎症性脊髄症」は私たちの外来で多く診察する患者群である。軽いしびれと痛みが主体であり、JOA スコアでは13点以上を示す、日常生活でさほど困っていない患者群である。脊髄が重度に圧迫され、輝度変化も呈しており、転倒すれば脊髄損傷になるという理由で、積極的に手術を勧める医師もいる。頸部圧迫性脊髄症の手術適応はJOA スコアに基づいて判断されることが多いが、JOA スコアだけで判断するのは危険ではないだろうか。私はどんな患者でも、その社会背景や家庭状況、精神的状態、性格など全人的な評価をして、治療方針を立てるべきだと考えている。患者が将来への不安や潜在的なADL 制限による精神的ストレスや、非典型的な症状などをもっていても、それらはJOA スコアに反映されないことを理解しておく必要がある。また、この疾患の自然経過をみると80%は不変であり、悪化するのは20%程度である。必ずしもすぐ悪化して歩行困難になるわけではない。それでは、装具療法やリハビリテーションで経過観察を主体として治療を継続することによいのであろうか？ いつもこの問題がクローズアップされるが、重要なのはまず患者をしっかり診察すること、症候をしっかり把握することであろう。その中で最も重要なのは、「病気を診ずして患者を診よ」である。この言葉は、浜松医科大学初代教授の井上哲郎先生が医局員へ周知した薫陶である。要するに、「病気にすぐ目をやるのではなく、患者を全人的に診なさい」ということである。患者自身が、加齢をどのように考えているか、また人生における価値観、病態・手術に対する理解力があるかどうかなど、しっかり把握して治療を選択すべきである。

今回のテーマに対する執筆者は、脳神経内科、脳神経外科、脊椎外科のスペシャリストばかりであり、頸椎症性脊髄症の自然経過、手術成績はもちろんのこと、それぞれの先生のお考えや哲学が学べる素晴らしい企画になっていると思う。

是非一読を!!

(松山幸弘)

脊椎脊髄ジャーナル

編集顧問

萬年 徹 小柳知彦 田代邦雄
国分正一 服部孝道

編集委員

松山幸弘 (編集委員長)
高見俊宏 (副編集委員長)
亀山 隆 黒川勝己 下川宣幸
高橋敏行 筑田博隆 永島英樹
中西一義 中村雅也 西田康太郎
原 政人 飛驒一利 堀 正明

Vol. 38 No. 7

(2025 年 7 月 25 日発行)

毎月 1 回 25 日発行

1 部定価 (本体 2,500 円 + 税)

(配送料別)

年ごめ予約購読料 33,300 円 + 税

送料弊社負担

発行／株式会社 三輪書店
代表者 青山 智

〒113-0033

東京都文京区本郷 6-17-9

本郷綱ビル

TEL 03-3816-7796

FAX 03-3816-7756

URL <http://www.miwapubl.com/>

(担当：西本・山岸)

印刷所／三報社印刷株式会社

TEL 03-3637-0005

広告申込所／

(株)文栄社

TEL 03-3814-8541

(株)ハイブリッジエージェンシー

TEL 03-3814-0089

本誌の内容の無断複写・複製・転載は著作権・出版権の侵害となることがありますのでご注意ください。

Published by MIWA-SHOTEN Ltd.

6-17-9 Hongo, Bunkyo-ku, TOKYO © 2025,

Printed in Japan

JCOPY 〈出版者著作権管理機構 委託出版物〉

本誌の無断複製は著作権法上での例外を除き禁じられています。複製される場合は、そのつど事前に、出版者著作権管理機構(電話 03-5244-5088, FAX 03-5244-5089, e-mail : info@jcopy.or.jp)の許諾を得てください。